

<愛と共感>の精神と<法と権利>の精神の結節点

- ケア実践と権利擁護実践を中心に -

田園調布学園大学 金井 守(3602)

キーワード： 愛と共感 法と権利 権利擁護

1. 研究目的

社会福祉やケアの実践は、愛と共感の精神に基づいて社会的困難にある人々を支援する活動に従事することと考えられてきた。一方、社会福祉関係法は、支援を必要とする人々の相談や金銭・サービス給付に関する仕組みや財政の枠組みを定めている。さらに、近年の社会福祉基礎構造改革により、利用者と事業者が対等な関係の下、契約を結んで福祉・介護サービスを利用する方法が採用された結果、利用者に福祉・介護サービス利用権ともいべき権利が発生した。これに伴い、市民法的権利を確保し利用者の権利主張を支援する権利擁護が重要性を増している状況にある。

この<愛と共感の精神>と<法と権利の精神>の両精神の特質及び両精神の関係をどのように考え、理論や実践の上で統合化できるかが重要なテーマとなる。両精神の特質が活かされ、両精神が協働し調和して働くことが社会福祉を一層発展させることができると考えるからである。

2. 研究の視点および方法

研究の視点として、両精神の結節点へのアプローチでは、社会福祉の立場に立ち、「福祉・介護領域」へ市民法的<法と権利>の精神が拡大し、正義の秩序が浸透してきたととらえた上で、これまでの<愛と共感>による人格的信頼関係と<法と権利>による法規範的關係の特質を探求する。

具体的には、<愛と共感>を代表するケア実践における権利に対する理解、<法と権利>を代表する権利擁護実践における人格的關係への理解を探る。

研究方法は、過去3カ年に渡る科研費研究を基に、表記テーマに従って文献研究を行い、考察を加える。

3. 倫理的配慮

自己の理論と他者の理論を峻別し、他者の理論については著者・書名その他の引用を明示する。また、偏見・差別的用語など不適切な用語を使用しない。事例については、本人の同意を得ることを原則とし、匿名性を確保し加工して使用する。全体として、

研究者の良心を堅持し、言説の証明根拠を確実にして、論理的整合性を図っていく。

4. 研究結果

(1) 人格的信頼関係と法規範的關係

社会福祉やケアの実践は、<愛と共感>による人格的信頼関係に立って支援が行われる。<愛と共感>による支援は、自発的意思に基づきひたすら他者の利益を求め純粋な行為で、共感に基づく他者への深い理解に根ざしている。糸賀の辞世の句となった短歌「この子らを世の光にとささげける いのちのかぎり春をまちつつ（京極高宣『この子らを世の光に』日本放送出版協会 2001 所収）にこのことが凝縮している。それは時として法の枠組みを超える場合があり、また、権利義務という法規範的關係とは馴染みにくいと考えられた。他方で、公法的生活保障という面で、国・行政に対して法制定や権利要求が行われてきた。

このような人格的關係を重視する「福祉・介護領域」に契約を通して市民法的<法と権利>の精神が浸透してきた。福祉・介護サービス利用にあたり、市民法的契約枠組みを採用し、サービス利用が権利としての地位を獲得することとなり、利用者にとって、権利行使と権利主張が課題となった。権利としてのサービス利用は、社会規範や法規範の範疇に属し、権利を行使し主張して権利を享受することが目的であり、それが正義を実現することである。ここで、福祉・介護サービス利用が<愛と共感>の精神と<法と権利>の精神の結節するところとなったのであり、福祉・介護領域において正義が語られる基盤が形成されたことになる。

(2) ケア実践と権利擁護実践

<愛と共感>の精神を具体的に表わすものがケア実践である。メイヤロフによれば、ケアとは、「他者の成長を助けること」であり、他者を自分の延長のように感じると同時に、本来持っている権利ゆえに尊重し、独立した人格として認めているとする(ミルトン・メイヤロフ著/田村・向野訳『ケアの本質』ゆみる出版 2006 所収)。<法と権利>の精神の基盤の上に<愛と共感>の精神を置いており、両精神は緊密に結合している。

他方、<法と権利>の精神を具体的に表わすものが権利擁護実践である。権利擁護は、他者のサービス利用の権利行使や権利主張を支援することであり、権利擁護実践は、成年後見制度や日常生活自立支援事業（それまでの地域福祉権利擁護事業）の他、地域包括支援センターにおける虐待対応など広く権利保護・権利実現に資する支援が考えられる。権利擁護実践は、他者の人格に対する愛と他者の生活状況や要望・意向に対する共感的理解に基づいた実践であると考えられる。ここでも両精神は緊密に結合している。

両精神は、それぞれの特質を持ちながら、実践場面において緊密に結合している。また、両精神は、契約を通じた福祉・介護サービス利用において結びあい、交流している。この実践的交流が深化すること、また、さらなる理論的探求がなされることが期待される。